

# 美術科

教科の重点目標 制作することの喜びを感じながら主体的に学習に取り組む態度を育み、創造的・発想の能力の向上を目指す。

	学習指導に関する現状と課題	具体的な授業改善策	補充・発展的な学習指導の計画	検証（成果と課題）
第三学年	<p>◎考える力を伸ばす観点 現状として、1クラス40名近い生徒数の中であるため、1時間の中で個別の指導に充てる時間がほとんどないため、全体指導の中で解りやすく適切な指導が必要である。</p> <p>◎習熟の程度に合わせる観点 発達段階として、技能の向上がみられる時期であるため、その技術を発揮することのできる課題設定が必要である。 最終学年としてより高度な課題に取り組むことで、高い芸術性をもった作品制作に取り組ませたいと考えた。緻密な計画と高度な技術により芸術作品が生まれることを知り、制作の喜びを感じながら作品制作に向き合いたい。</p> <p>◎生徒による授業評価からの観点 生徒は授業目標を明確に把握し、取り組んでいる。一方で、自分の作品を展示されたり見られることに強い拒否感がある。</p>	<p>一学期には「15歳の自分～自画像のデッサン」を通し、これまで重ねてきたデッサントレーニングの成果を発揮できる課題を設定した。鉛筆での多彩な表現ができるよう、パーツの練習を繰り返し行い、段階を踏んで完成できるようにする。また、修学旅行に向けて、日本美術の調べ学習を行う。修学旅行で訪れる寺院の仏像や、美術品について事前学習を行う。 鑑賞では、日本の美術品の美しさを味わわせ、修学旅行に生かし、伝統的な文様を学び作品作りに生かす。また、西洋の有名画家の作品や、平和教育に関連した鑑賞を行う。 三学期には「工芸」の分野から「絵皿の制作」を行行い、より高度な作品制作に取り組みたい。三年間の学習の集大成として身につけた技術を生かしながら芸術性豊かな作品制作に繋げていきたい。 展示に関しては、これまで一度も自分の作品が校内に展示されたことがない生徒がいる。一年時から全生徒の作品を展示する習慣を整えば、拒否感が薄まり、自他の作品を鑑賞する楽しさや認められることの喜びを感じることができると考え展示用品を充実させ、積極的に展示を行う。</p>	<p>見る力、描写する力、考える力を伸ばすため、各学年共にクロッキーの課題を設定し、表現力及び発想力の向上につなげていきたい。授業の始めの導入として取り組み、繰り返し行うことで描く力を向上させたい。 題材は自分の暮らしのまわりのものとし、自分の手やバケツ、上履きなど身近なものを描き、身近なものを描く楽しさや、発想・表現力の向上につなげていきたい。技能の高まりとともに、複雑な題材を与え発展的な学習を行う。 自画像のデッサンでは、描くことを苦手としている生徒が取り組みやすいように、パーツの練習や、顔面の構造を理解させ細かな手順を説明しながら制作していく。 鑑賞では、日本の美術品の良さや美しさ、歴史を学びながら修学旅行で本物にふれさせ学習をより深いものにさせたい。 デザインの分野からは、夏休みにピクトグラムについて調べたものをもとに、地域のピクトグラムをデザインする。オリンピック教育と関連付けバリアフリーの観念を理解させる。</p>	